



ビデオやその他の物的証拠の使用に関する R&A/USGA 声明

R&A ルールズリミテッド (The R&A) と全米ゴルフ協会 (USGA) は、本日、ゴルフ規則を施行する際のビデオやその他の物的証拠の使用について現在行われている見直しに関する下記の声明を発表しました。

近年、HDTV、デジタル記録、オンラインの視覚媒体のようなビデオテクノロジーの急速な発展は、エリートゴルフトーナメントで生じる規則の問題に新たなレベルの精査をもたらしました。このことは、TV 視聴者やその他の人々からオフィシャルに対して規則違反が起きたのではないかという問い合わせを増加させることにつながり、場合によってはその出来事が起きてからしばらくたってから認識される（そして罰が適用となる）規則違反が生じる結果となりました。時として、違反が認識されたのはそのプレーヤーがスコアカードを提出した後であり、したがって規則 6-6d に基づき競技失格という結果となりました。こうした技術の発達は、どのように、いつそうしたビデオによる証拠が使われるべきなのかどうかということに関しての重要な議論を引き起こしました。

R&A と USGA の規則委員会は、規則への変更が妥当であるかどうかを決めるために、そうした継続的な技術の進歩を踏まえた規則の施行を検討してきました。2011 年 4 月に、R&A と USGA はプレーヤーがビデオによる証拠を通じてのみ後になって認識できる規則違反に合理的に気付くことができなかったという困った状況においては、委員会が規則 6-6d に対する競技失格の罰を免除することの正当性を認める裁定 33-7/4.5 を導入しました。

裁定 33-7/4.5 を導入してから、R&A と USGA はゲームへのビデオテクノロジーの影響の再考察を続けてきました。R&A や USGA の規則委員会へのコンサルティングメンバーとして従事してきたプロツアーからの代表者のアドバイスと支援を受け、今回は止まっている球が規則の意味において「動いた」かどうかを決定する際のビデオテクノロジーの使用に対処するために、2014 年 1 月 1 日から発効するさらなる規則の修正を導入しています。新裁定 18/4 は、高度な科学技術による証拠が、球が元の位置を離れて他の場所に止まったこと示している場合、その動きをその時に裸眼で合理的に認識することができなかったならば、その球は動いたとみなされることはないという規定することになります。高度な科学技術を使用しなければその球が位置を変えたという事実が合理的に分からなかった状況においては、プレーヤーは規則 18-2b に基づく罰を受けないということをこの裁定で保証しています。

これらの裁定に留まらず、2016 年規則の見直しの一環として、ゴルフ規則委員会は、球のマーキング、拾い上げ、そしてリプレースに必要な正確性の度合い、救済を受けるための参照ポイントの推定、そして罰を受けていたことにプレーヤーが気付かず正しくないスコアカードを提出してしまったことに対する妥当な罰という全般的な問題というような、ビデオテクノロジーがゲームのプレーに規則を適用することに与える影響の可能性に関するその他の問題を議論することになります。テレビ中継される多くの他のスポーツの規則にも当てはまるように、テクノロジーの進歩に適応していくことは、ゴルフ規則を作り、適用していく際の重要な継続的な課題となります。

この継続的な見直しを行うとき、R&A と USGA は、委員会はその情報源にかかわらず、規則を適用しなければならない事実を決定するために関係があるかもしれないすべての証拠を考慮すべきであるというずっと昔からの見解に導かれます。裁定集の中に含まれる解釈に反映されているように、事実問題を含むすべての状況に対して、いかなる紛議の解決もすべての関連する状況と証拠の重さを考慮してなされなければなりません。正しいルーリングに至るために、規則



違反の可能性に関する目撃者からのすべての証拠は、そうした目撃者がその競技会の参加者、観客のような競技に参加していない者、あるいはテレビ録画を見直した人などであるかどうかにかかわらず、考慮されなければなりません。加えて、裁定集では委員会は競技終了前にさらなる情報が利用できるようになった場合、ルーリングを行ったり、裁定を訂正することができると規定しています。

多くの他のスポーツでは、規則の裁定の再検討や訂正に厳格な時限を課すことについて正当で理解できる理由があります。しかしながら、ゴルフではたとえエリートレベルであっても、プレーヤーたちはしばしばレフェリーの支援なしに規則を自分たちに適用しますし、ストロークプレーでは各ホールに記録されたスコアの正確性について責任があります。さらには、競技会はしばしば2日間以上にわたってプレーされ、ストロークプレーでは成績は一般的にトータルスコアに基づきますので、事実のかなり後になっても、実際には結果が正式に発表されたことによってその競技会が終了する前であればいつでも誤りを訂正することを可能としています。こうした理由から、競技会が終わる前に得られた関連する規則違反の証拠を無視することは、正しくない一連の事実と規則を正しく適用することができなかったことに影響された成績の公正さについての不健全な議論と不協和へと導くことになりかねません。プレーヤーが規則違反をしたものの、そのことがしばらく経つまで発見されない場合、それがビデオの証拠であろうが、あるいは別の物によってであっても、正しいルーリングがなされ、そのプレーヤーのスコアが正確に記録されるためにそうした証拠は考慮されなければなりません。ビデオや高度な科学技術を使用することについての現在行われている見直しの中で、R&A と USGA はその時期や使われる証拠の種類にかかわらず、ゲームの誠実さは正しいルーリングを行うことによって最も良く達成されるという見解にしたがって行動していきます。